平成27年8月5日

各県人会会長　様

山梨県人会連合会
事　務　局

郵便局の「みまもりサービス」について

拝啓　益々ご健勝のことと、お喜び申し上げます。また日頃より山梨県人会連合会の活動には種々ご尽力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さてわがやまなし出身の西室泰三社長や同じく鈴木康雄上級副社長が率いる日本郵政株式会社のグループ内の日本郵便株式会社が、お膝元の「やまなし」を皮切りに、表記「みまもりサービス」を全国展開される事になりました。

それに伴いまして「郵政山梨県人会」も、現在から将来に亘って正に当サービスの該当者となり得る、各山梨県人会の会員への浸透につきまして、一役買っておられるとの事で、当連合会にご案内及び資料の送付について、協力の依頼が有りました。

つきましては、弦間会長等幹部の方とも相談のうえ「郵政山梨県人会」は山梨県人会連合会にとりましても、「東消甲斐路会」と共に職域県人会として連合会に所属する貴重な県人会組織でありますので、本日「郵政山梨県人会」の事務局が持ち込まれた上記資料に、貴職方の宛名のラベル貼付のうえ発送のお手伝いをさせて頂いた次第であります。

また今後当サービスがふるさと創生に何らかの役割を果たすのなら、県人会としても組織的な協力も模索して行く意見も出ております。

何卒ご事情ご勘案のうえ、あくまでも貴県人会の会員の皆様の中で、当該サービスが少しでもお役にたてるなら、というご発想のもとにご協力下さいますようお願い致します。

酷暑の折柄くれぐれもご自愛下さいますよう、祈り上げまして先ずは書面にてお願い申し上げます。

敬具

２０１５年８月５日

各山梨県人会 会長　様

郵政山梨県人会
事務局　山本 好男
（JP 東京特選会㈱ 社長）

日本郵便㈱が提供する「郵便局のみまもりサービス」のご紹介

皆様におかれましては、益々、ご清栄のこととお喜び申し上げます。

山梨県人会連合会に参加させていただいております、郵政山梨県人会事務局の山本と申します。

突然のご案内にて、失礼いたします。

私ども郵政山梨県人会は、日本郵政グループの社員及びＯＢにて組織・構成している県人会でございますが、この度、グループの中核企業であります日本郵便㈱が、「郵便局のみまもりサービス」を山梨県全域にてサービス提供することとなりましたので、関係の山梨県人会の皆様にご紹介をさせていただきたく、ご案内いたします。

昨今の少子化や労働人口の都市部集中により、山梨県出身の方々の中にも、ご両親様だけが山梨県で暮らされているというご家族様が多いのではないかと思います。

日頃から、ご両親様を心配しつつも、仕事の関係で東京にて生活をせざるを得ないという方々も多いのではないでしょうか。

日本郵便㈱の「郵便局のみまもりサービス」は、そのような環境にあるご家族様のご心配を、解消するお手伝いをさせていただくサービスとなっております。

詳細につきましては、日本郵便㈱東京支社からの資料を添付させていただいておりますので、ご一読いただき、御会の会員の皆様方にご案内をいただけましたら、幸甚でございます。

本来であれば、各県人会の事務局様を訪問させていただき、詳細をお話させていただくべきではございますが、間もなくお盆の帰省の時期となることから、**帰省の折にでも、ご両親様等とご利用をご相談いただけますよう、一先ず、御会の会員の皆様にご案内いただきたい**と考える次第でございます。

また、これから秋に向けて、**御会の総会等の開催のご予定がありましたら、是非、「郵便局のみまもりサービス」をご説明させていただくお時間を頂戴いたしたく**、ご検討くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、御会の会員様等にて、詳細を知りたい等のご要望がありましたら、遠慮なく、日本郵便㈱東京支社の担当者（詳細資料に記載）または小職まで、お気軽にご要請いただければと存じます。

盛夏の折、御会の会員の皆様のご健勝と、御会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

郵政山梨県人会事務局連絡先：03-5817-8097（JPｸﾞﾙｰﾌﾟ「JP 東京特選会㈱」 内）

山梨県人会の皆さまへ

郵便局では、「郵便局のみまもりサービス」及び「郵便局のみまもりでんわ」を山梨県全域で取扱開始しました。

1

＜こんな方へおすすめです！＞

○離れて暮らすご家族が心配だけど、仕事の都合等で**なかなか会いに行けない。**

○月に数回でいいから、**訪問して様子を教えて**ほしい。

○ときどき会いに行って、**話し相手になって**ほしい。

2

＜こんなサービスです！＞

○郵便局のみまもりサービス

・郵便局社員が「フェイストゥフェイス」の訪問を実施、対応状況等を確認して、結果を報告します。

・郵便局ならではの**“あたたかさ”**をお届けします。

○郵便局のみまもりでんわ

・毎日、同じ時間に音声メッセージによる電話をして、電話の①～③をプッシュすることで体調確認します。

・毎日、同じ時間にメールで体調をお知らせすることにより**“あんしん”**をお届けします。

3

＜お客さまからいただいたご意見＞

○ご利用者(会員)の皆さまから

・郵便局社員にいろいろな話を聞いてもらって、**訪問してくれる日が待ち遠しい。**

・食事会などで、他の利用者（会員）と話ができて**楽しい**し、**友人も増えた。**

○ご契約者の皆さまから

・ひとり暮らしの母が心配だが、仕事の都合で**頻繁に会いに行けないのでありがたい。**

・**「親孝行」**のつもりで続けています。

・兄の家族と暮らしている父が心配ながらも頻繁に電話できないので、毎日の体調確認や安否確認をメールで報告してもらって感謝しています。

是非、このサービスで心配事を解消させてください！

〈連絡先〉

日本郵便株式会社　東京支社　金融営業部　みまもりサービス担当

TEL03-5574-9378（内野・田沢・清水）

【サービスの概要】

山梨県内の郵便局（簡易郵便局を除く。）では、離れて暮らす大切なご家族のために「郵便局のみまもりサービス」「郵便局のみまもりでんわ」サービスをお取り扱いしています。
サービスの概要は下記のとおりとなっております。

○　郵便局のみまもりサービス

ご利用者さま宅へ郵便局社員等が原則月１回（訪問回数は追加可能）お伺いし、会話を行いながら生活状況を確認いたします。また、ご希望があれば、確認結果をご指定先へご報告いたします。
なお、このサービスには「２４時間電話相談」「かんぽの宿　宿泊割引」が含まれます。

ご利用料金	
３０分コース	６０分コース
月額１，９８０円	月額２，４８０円
訪問回数を増やす場合	
30 分訪問：1 回追加につき 1,500 円、60 分訪問：1 回追加につき 2,000 円	

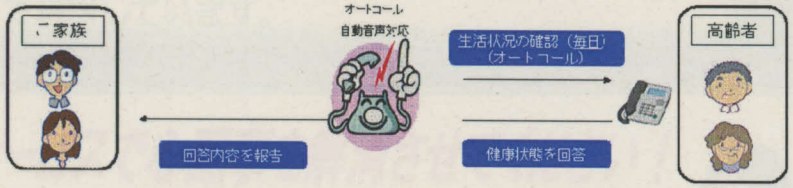
※料金は税抜です。

○　郵便局のみまもりでんわ

音声メッセージで毎日の健康確認を行います。ご希望の時間帯にお電話し、その日の体調の番号を押していただくと、その結果が最大４か所までメール報告いたします。

ご利用料金	
固定電話コース	携帯電話コース
月額９８０円	月額１，１８０円

※料金は税抜です。



○　山梨県以外のサービス提供エリア

長崎県	県内全域	北海道	登別市、白老郡白老町
石川県	珠洲市、鳳珠群能登町の一部	宮城県	大崎市の一部
岡山県	新見市		遠田郡涌谷町・美里町

ADULT CARE SERVICE by JAPAN POST

郵便局のみまもりサービス

文＝乾 祐崎　写真＝相馬ミナ

一人暮らしのために、郵便局が立ち上がる

「見守り」ではなく「みまもり」――。郵便局があたらしいサービスをはじめています。郵便局社員が地域の高齢者宅をたずねて、生活状況を確認する「郵便局のみまもりサービス」です。遠方に暮らす家族への報告サービスもあります。2013年10月から全国6エリアではじまったこのサービスでは、地域に郵便局ならではの〝あったかさ〟を振りまいています。積極的にサービスを進める山梨県都留市を訪ねました。

高齢化する地域

新宿から特急あずさで1時間ほどの大月駅から富士急大月線に乗り換えると、すぐに都留市に入る。JR東海によるリニアの実験線で有名な都留市は、総人口3万6129人（2014年4月1日現在）の街だ。65歳以上の高齢者の数は8011人で、高齢化率は25・3パーセント。この数字はほぼ日本全体の平均値に近い。つまるところ、現在のわが国では4人に1人が高齢者なのだ。国立社会保障・人口問題研究所のデータによると、日本の高齢者は2035年には総人口のおよそ3人に1人になるという推計もある。〝超高齢化〟社会は間近に迫っている。

とりわけ、数多くの地方都市や中山間地では、高齢化は大きな社会問題になっている。なによりも心配されるのは、高齢者の方々の暮らしそのものだ。健康で長生きしてもらいたいというのは家族をはじめ国民みんなの想いだが、たとえば一人で生活している元気な高齢者の健康的な暮らしをケアしていくのは、そう簡単ではない。

都留市地域福祉課によれば、65歳以上の高齢者8011人のうち、夫婦世帯は1109世帯、1人世帯は1312人（世帯）にも及ぶという。

これら高齢者世帯向けに、行政やNPOもさまざまなサービスや支援を行っている。たとえば都留市でも、在宅高齢者の緊急通報システム「ふれあいペンダント」や、栄養改善と健康増進を目的とした「給食サービス」、寝たきり高齢者向けの「ふとん丸洗いサービス」などがその一例。ただ、健康で元気に暮らしているお年寄りを、あったかく「みまもる」のは難しい。

そこで立ち上がったのが、地域のインフラとして活躍してきた郵便局。高齢者の生活をサポートするサービスとして、「郵便局のみまもりサービス（以下、みまもりサービス）」をスタートさせたのだ。

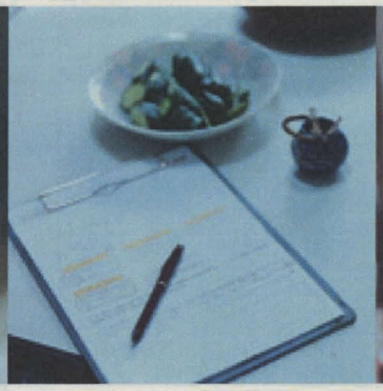
〝みまもり〟の現場へ

「みまもりサービス」の内容は、おもに一人暮らしをしている高齢者のご自宅を訪問して、お客さまとなる方の生活状況を確認。要望があれば遠方の家族に報告する。頻度は月に1度だ。そのほか、24時間対応の電話相談も可能で、健康や栄養など、日常生活に関する相談に応えてくれる。また、オプションとして電話による毎日の体調確認、自宅でできる血液検査キットの案内、常備薬の割引購入なども用意されている。年に何度か、イベントや食事会も開催している。

今回、都留市にある東桂郵便局に協力をいただき、実際の現場を取材させていただいた。

局長の馬木典昭さんと一緒に、「みまもりサービス」の利用者の一人である山口恵子さん宅へ。やり取りを間近で見せていただいたのだが、それはまるで〝家族の風景〟のような、とてもあたたかなものだったというのが第一印象だ。

「あれからどうだった？」
「元気にしてたよ」
「自転車乗っているの？」
「うん」
「元気だね。よかった。でも気をつ



けなさいよ」

会話の内容は健康状態をはじめ、日々の趣味、家族の近況など、多岐にわたった。「恵子さんはね、勉強熱心で、チャレンジ精神も旺盛なんだよね。だから元気。今は百人一首を覚えているんだよね」なんて話も。毎月、そうしていろいろな話をしているのだろう。山口さんもにこやかに相槌を打つ。「いつもならね、このくらい話したところでお新香が出てくるんだけどね」と、馬木さんが冗談っぽく言えば、「切ってあるよー!」と山口さん。自家製のキュウリのぬか漬けをつまみながら談笑するのを見て、二人の間にたしかな信頼関係が築かれているのがわかった。

山口さんが「みまもりサービス」を利用しはじめたのは昨夏から。郵便局でサービスの案内を受け、内容や金額面などを考慮して、契約したという。「恵子さんは2年ほど前に膝を手術されてね。足の具合にちょっと心配があったようで、そんな折に郵便局でこのサービスをご紹介させてもらったところ、利用していただけることになりました」と馬木さん。「良心的な金額、なにより家族以外の人と、こうやって何気ない会話をできるのもいい」と山口さんも話してくれた。

みまもりに行くと、親身になってしまってつい1時間は話し込んじゃう。

馬木さんの想い

東桂郵便局は、都留市、大月市、南都留郡西桂町、道志村などにある18の郵便局で組織される都留東エリアの1局だ。「みまもりサービス」の契約者は、都留東エリア全体で36名。全国6エリアでおよそ100名が契約しているというから、3分の1がこの都留東エリアになる。いかに積極的に取り組んでいるかがよくわかるが、「単に契約数を増やせばいい、というものでもない」と馬木さんは話す。

「サービスの名称は、〝みまもり〟とひらがなで書いてあります。この〝あったかい〟イメージがサービスの本質であって、それを忘れてはならないと思っています。民間企業の事業の一つですから、もちろんたくさんの方に利用していただきたいと思うし、先人たちが培ってきた、〝普段着で入れる〟〝頼りになる〟といった、地域の中での郵便局の価値を大事にしたいという想いが強いですね。

この地域で暮らしていますから、地域貢献なんて言葉はあたりまえすぎて、あまり使いたくありません(笑)。地区の会合にはなんでも出ますし、共同の清掃も必ず参加します。そうやって信頼をつくってきたのが地域の郵便局ですから。この『みまもりサービス』でも、サービスご利用のお客さまはもちろんのこと、親を想う子世代のお客さまがいかにこのサービスを通じて、安心を感じてもらえるかが重要。結果は今すぐ出ないかもしれませんが、最終的に多くの高齢者がご利用いただけるように、子

8 7 6 5 | 4 3 2 1

1.「郵便局のみまもりサービス」を利用している山口恵子さん。2.生活状況を確認するチェック表と、山口さんのぬか漬け。「みんなも食べてよ」。3.局長の馬木さん。「つい長い時間、お邪魔してしまいますね」。4.国道139号線沿いにある東桂郵便局。5.笑顔で接客する東桂郵便局の渡邊結佳さん。6.郵便配達員さんもにっこり笑顔。7.近くには富士急大月線が走る。8.「お友達との旅行貯金をしにきた」という地元の斎藤みつよさん。

住民からも、遠くの家族からも頼られる、〝あったかい〟郵便局でありたいんです。

世代のお客さまにもご契約いただけるとうれしく思っています」

取材の日も、東桂郵便局には多くの利用者が訪れていた。ある初老の男性は、「郵便局は仕事の関係でよく利用します。個人的にもATMを利用したり。だいたい週に2、3回くらいかな。局長とも懇意にさせていただいてます。やっぱり郵便局は人間味というか、あたたかみがあるのがいいよね」と話してくれた。

サービスのこれから

馬木さんの理想のサービスは、〝ゆりかごから墓場まで〟だそう。

「郵便局は郵便や貯金、保険など、さまざまな事業を行っています。お子さんが生まれたら貯金をし、進学などに備えて保険に入り、日常では郵便を活用していただく。ご高齢になったら『みまもりサービス』をご利用いただけます。でも、『みまもりサービス』は医療ではありません。地域の人と歩んできた郵便局長としては、今後は医療機関や専門的な知識を持った企業、自治体、NPOの方などと連携していければと感じています」

地域に根ざした郵便局が提供するこの福祉的なサービスは、新しい可能性を感じる。サービスを申し込む世代は、高齢な両親を持つ60歳前後の子世代。まだまだ元気で、これから地域のハブとして活躍できる彼らと地域に根ざした郵便局とが結びつけば、たとえば地域の雇用創出や生涯教育、防災や介護支援にも力を発揮するはずだ。さらに、もともと郵便局は個人金融サービスに強い。ファイナンシャル・プランナーの資格を持つ社員も増えており、相続のことも考えなくてはいけない高齢者にとって、地域に話ができる身近なアドバイザーがいるのは心強い。

「郵便局に堅いイメージはいらないと思うんです。みんなが気軽に頼ってもらえる、そんなあったかい郵便局でありたい」と馬木さん。「みまもりサービス」が、郵便局のサービスをさらに進化させそうだ。

郵便局のみまもりサービス

郵便局社員が利用者宅に訪問するなどの際に、生活の様子を確認するのが基本サービス。希望があれば、確認結果を別地域に住んでいる家族などに報告してもらえる。24時間の電話相談、かんぽの宿の宿泊割引、定期会報誌もサービスに含まれる。オプションとして、電話による毎日の体調確認や、自宅でできる血液検査キットの案内、家庭用常備薬を特別価格で購入できるカタログの案内が用意されている。2015年3月現在、北海道(登別市・白老町)、宮城県(大崎市の一部・涌谷町・美里町)、山梨県(大月市・都留市・西桂町・道志村)、石川県(珠洲市・能登町の一部)、岡山県(新見市)、長崎県(対馬市)の全国6エリアでサービスを実施。今後、サービスを拡大する予定。